

さらに詳しく知りたい方は、「豊中市子ども読書活動推進計画」、
「評価報告書」「豊中市子ども読書活動推進計画 第2期実施計画」
をごらんください。

市内の各図書館や図書館のホームページでも見るができます。
取り組みに興味を持たれた方は、豊中市立岡町図書館までお気軽に
お問い合わせください。

☆豊中市立図書館ホームページ☆
<http://www.lib.toyonaka.osaka.jp/>

(表紙より)

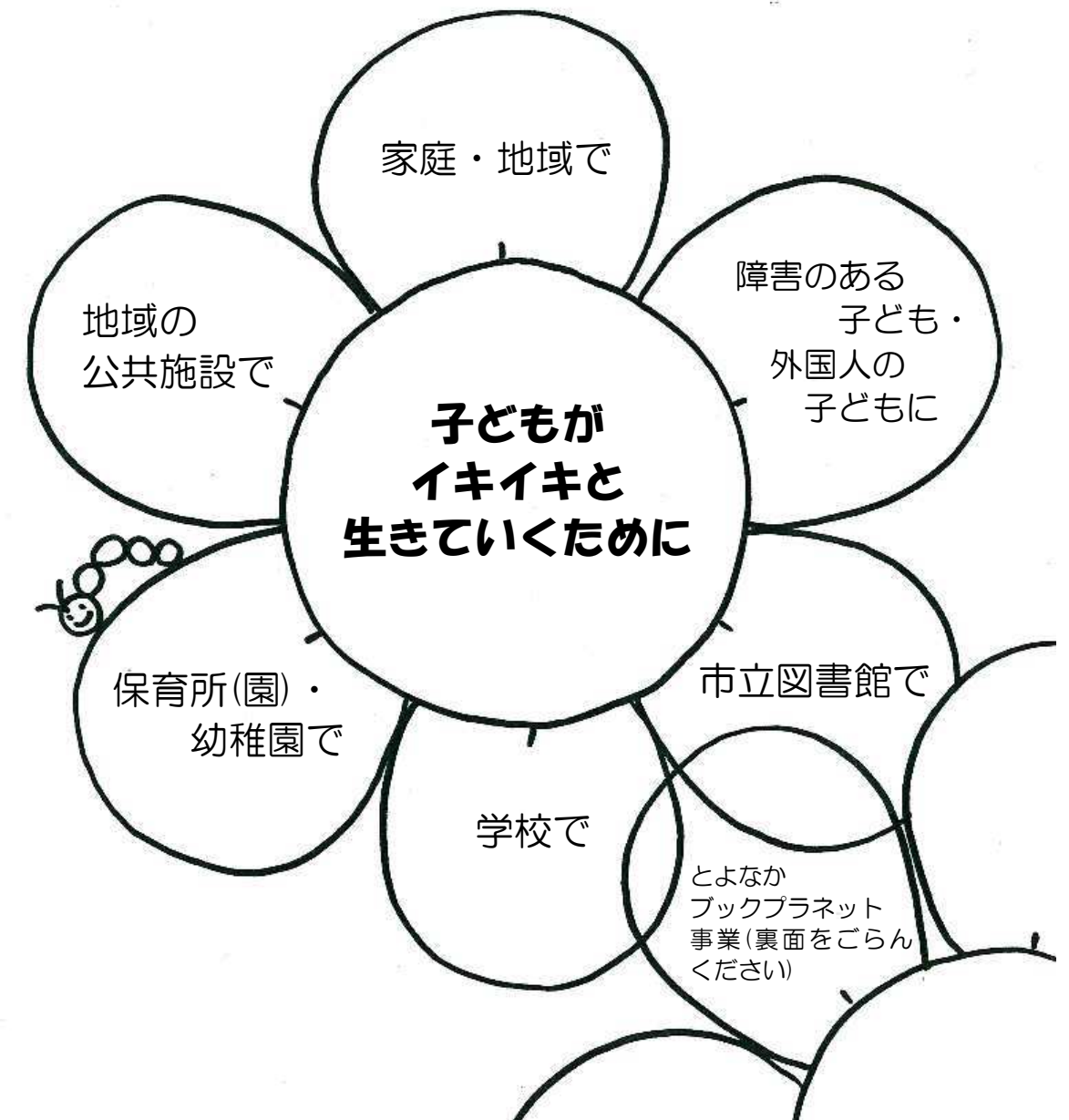
「とよなかブックプラネット事業」とは

学校図書館と市立図書館の本を効果的に活用する仕組みを作ることで、
子どもが様々な本に出会い、自ら学ぶ力を育てることを目的とする事業
です。

豊中市子ども読書活動推進連絡協議会事務局
豊中市教育委員会 生涯学習推進部読書振興課 岡町図書館
〒561-0884 豊中市岡町北3-4-2
電話 06-6843-4553 F A X 06-6841-3493

豊中市子ども読書活動推進計画 第2期実施計画 概要版

～みんなの手でつくろう！すべての子どもに身近な読書環境を～



平成24年(2012年)6月

豊中市 豊中市教育委員会
豊中市子ども読書活動推進連絡協議会



Q. 「豊中市子ども読書活動推進計画」とは何ですか？

- A. 読書は自分の考えを表現したり、コミュニケーションの力を身につけて、イキイキと生きていくために大切なことのひとつです。そこで、子どもがいつでもどこでも本を手にとることができるように環境を整え、子どもの読書に関わる様々な活動を支援する計画です。
- 平成18年(2006年)から4年間取り組んだ第1期計画では本と出会える身近な場所が増え、子どもと本に関わる人同士のつながりが生まれました。第1期の課題をふまえ、平成22年度(2010年度)からは第2期計画の取り組みを進めています。

Q. どんなことをしているの？

- A1. 子どもが生活するあらゆる場所で、また障害のある子どもも外国人の子どもも、豊中のすべての子どもが豊かな読書体験を持てるような取り組みをしています。

【家庭・地域で】

子ども文庫、子育てサロン、子育てサークルは親子で絵本や遊びを楽しみながら安心して過ごせる場所です。絵本の楽しさにふれ「家でも親子で楽しみたい」という保護者の声も聞かれるようになりました。

【地域の公共施設で】

各公共施設では読み聞かせや保護者向けの絵本講座を実施しています。保健センターでは、4か月児健診時に、保健予防課と図書館と市民ボランティアが、絵本を介した子育て支援を行っています。平成23年(2011年)8月から絵本のプレゼントが始まりました。また、親子で本のある場所に出かけてもらえるよう1歳6か月児健診時には「とよなかこども読書マップ」(後掲)を配布しています。

【保育所(園)、幼稚園で】

絵本コーナーが充実し、毎日みんなで絵本を楽しんでいます。お便りや保護者会で、子どもたちが好きな本やおすすめの本を、保護者にお知らせする取り組みも進んでいます。

【学校で】

全小中学校に学校図書館司書を配置しています。子どもたちが自ら学び、考える力を身につけられるよう、先生と学校図書館司書が連携し、授業の中で学校図書館を活用しています。また、学校図書館は児童生徒の主体的な読書の場として活用されています。

【市立図書館で】

子どもの成長に応じて、幅広い資料を提供すると同時に、本に親しんでもらえるような行事を行っています。また、子どもの読書に関わる市民団体や施設、機関とネットワークを組んで、豊中市の子ども読書を支えています。

【障害のある子ども・外国人の子どもに】

児童発達支援センターや支援学校では、子どもたちが自由に本を選ぶことができるように、動く図書館を利用しています。また、児童発達支援センターでは園児と保護者対象に市立図書館の見学会を行っています。

豊中市で子育て中の外国人が、子どもを連れて安心して参加できる「おやこでにほんご」を市立図書館で実施しています。日本語だけでなく母語の絵本にふれたり、子育てや暮らしの情報交換ができる場となっています。

- A2. 全市的な取り組みもあります。

【子どもと本をつなぐ地域交流会の開催】

子どもに本の楽しさを知ってほしいという思いを持つ市民と、子どもに関わる市の職員が集まり、すべての子どもに身近な読書環境を作るための活動報告や情報交換を行っています。新しい活動が生まれる場ともなっています。

【とよなかこども読書マップの発行】

本を読んだり、借りることのできる場所やおはなし会を実施している場所の情報をまとめました。1歳6か月児健診時や市内の施設で配布しています。

子どもが
イキイキと
生きよう
するために

Q. どんな人が関わっているの？

- A. 市民、保育士、幼稚園や学校の先生、市立図書館や学校図書館の司書、子どもに関わる施設の職員など大人が協働して、計画づくりや取り組みの実施、評価などに関わっています。

Q. 子どもの読書活動をどのように評価するの？

- A. 物語を楽しむ読書や知識・情報を得る読書、読書と言っても様々です。読書が子どもの成長に与える影響は、表れるまでに長い時間がかかり、時には目に見える形ではあらわれないこともあります。
- そこで毎年「子どもが何冊本を読んだか」というようなことではなく、大人がどれだけ子どもの読書環境を整えたかについて、下にあげる3つの指標(ものさし)で評価しています。(詳しくは「評価報告書」をごらんください)

3つの指標(ものさし)とは

- | | |
|---------------------------|---|
| ①事業・ネットワーク・情報 | = ソフトウェア
(おはなし会や講座の開催回数など) |
| ②読書に関わる施設と資料 | = ハードウェア
(市立図書館や学校図書館の本の冊数) |
| ③本を手渡す専門職員や
そのほか担い手の意識 | = ヒューマンウェア
(市立図書館・学校図書館司書や
ボランティアの意識をアンケート調査) |

